

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査 三ツ境小の結果について

令和5年4月18日に全国の小学校6年生・中学校3年生を対象に実施された標記の調査の各教科に関する結果の概要と質問紙に関する結果の概要をお知らせいたします。

## ◎ 各教科の調査結果からみる本校の状況

- 調査結果においては、全国の平均正答率と比べ、国語も算数も少しだけ高い結果となりました。  
【平均正答率(%)】

	国語	算数
本 校	69	64
全国との差	+1.8	+1.5
神奈川県	66	63
全 国	67.2	62.5

※ 全国の平均正答率については、文部科学省の指示のもと整数値に直してあらわされています。

※ 横浜市、神奈川県、全国の値は、公立学校の平均正答率です。

## ◎ 各教科で顕著な結果が見られた設問

## 【国 語】

- 「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えることができる。」が5.7ポイント高い。
- 「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。」が4.3ポイント高い。
- 「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。」が8.7ポイント低い。

## 【算 数】

- 「( ) を用いた式や、加法と乗法の混同した式を場面と関連付けて読み取ることができる。」が9.0ポイント高い。
- 「2位数÷1位数の筆算について、図を基に各段階の商の意味を考えることができる。」が6.7ポイント高い。
- 「一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができる。」が10.1ポイント低い。

## ◎ 質問紙の結果を踏まえた分析

- 国語についての平均正答率を見ると、おおむね全国水準であることが分かります。学習意欲や国語科学習の重要性については、全国より高い数値を出しています。中でも、友達とお互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを見直したりよい部分を見つけたしすることにつながっていることが分かりました。しかし、情報活用能力には課題が見られます。活動の目的を明確にし、どんな情報をどのように使っていくのか、その方法や過程について指導を見直していきます。
- 算数は、平均正答率においても、質問紙の内容においても、全国水準であることが分かりました。しかし、学んだことを生かして課題を解決する能力を伸ばす必要性を感じます。汎用的な学習になるように、計画的な指導を目指していきます。
- 一昨年から本格的に活用しているICT機器については、使用頻度が全国平均よりも高く、子どもの学習意欲を高めていることが調査にも表れていました。情報活用能力とあわせて今後も効果的な活用ができるよう支援、指導をしていきます。

※なお、個人の結果が示されている「個人票」は、個人情報保護袋に入れ、本日配付します。

お子さんと結果について振り返る機会にしてください。保護袋については、返却をお願いします。